

IAAL RDA 講習会

英米目録規則 (Anglo-American Cataloguing Rules) は「AACR3」に改訂されるのではなく、新たな FRBR, FRAD, FRSAD の概念モデルを基に、2010 年にまったく新しい枠組みの RDA (Resource Description & Access) として刊行されました。すでに LC (Library of Congress) では来年の 2013 年 3 月 31 日をもって完全に切り替えることが表明され、2013 年第 1 四半期をめどに National Library of Medicine, British Library, Library & Archives Canada, Deutsche Nationalbibliothek, National Library of Australia でも実装されることになっています。このような国際的な目録の動向をおさえるためには、まず RDA とはどのようなものかを知っておく必要があるでしょう。

IAAL (大学図書館支援機構) では、図書館現場の目録実務担当者向けに、RDA 講習会を実施します。第 1 回はプロローグとして「RDA とはどのようなものか」を解説します。第 2 回以降は連続講座として、RDA の各セクションの具体的な内容をみていきます。

第 1 回 プロローグ : RDA とはどのようなものか
2012 年 12 月 15 日 (土) ・ 2013 年 1 月 26 日 (土)

第 2 回 RDA をカタログガーの視点で読む①セクション 1-4 属性の記録
2013 年 3 月 9 日 (土)

第 3 回 RDA をカタログガーの視点で読む②セクション 5-10 関連の記録
2013 年 5 月 11 日 (土)

NPO 法人大学図書館支援機構

〒170-0004 東京都豊島区北大塚 1-19-12 6F
TEL: 03-5961-3401 FAX: 03-5944-5087 info@iaal.jp

場所
芝公園
機械振興会館

時間
14:00-16:00

はじめに

1. RDA の背景：なぜ AACR3 ではないか？

AACR2 の改訂作業は、カード目録からの脱却（FRBR：Functional Requirements for Bibliographic Records「目録の機能要件」に基づく）、多様な媒体への対応、国際化という課題が検討され、2010 年 6 月に RDA：Resource Description & Access として刊行されました。

従来の AACR の「目録」Cataloguing の考え方は、1961 年の「パリ原則」に基づき、記述と標目（見出し語）を直線的に構成したものでした。IFLA でも Web の時代に原則を再編成する必要性が論じられ、新たに「国際目録規則」ICP が制定(2009)されています。このような背景で RDA は、ALA, BL, CILIP, LC 等共同作業（Committee of Principals(COP)）が主体となって作成されました。

RDA が素案として発表(2007)されてから刊行されるまでには、LC（米国議会図書館）のワーキンググループから”On the record.”という報告書(2008)を受け、目録業務の効率化について素案の見直しが行なわれたり、WWW Consortium などの図書館以外の情報機関と協調しようとする協議を経ていることも、RDA を知る上で必要なポイントです。

2. FRBR の最も重要な点

RDA は FRBR、FRAD、FRSAD の概念モデルに基づいています。FRBR（1998 年初版、2009 年版）とは、「発見、識別、選択、入手」という基本的な利用者タスクに見合うように、資源の記述において識別特性を対応させることが述べられているものだと理解しましょう。著作、表現形、体現形、個別資料といったレベルで実体を捉え直す概念モデルというと難しく聞こえますが、「関連」という方法で表現することが、利用者の「発見、識別、選択、入手」を果たすという考え方なのです。

3. 目録業務はどう変わるか、変わらないか

即ち、利用者の求める機能を満たすべく書誌（目録業務）が変わらなければならないということを示したのが RDA ことができます。しかし、対象のリソース（資源・情報源）からメタデータ（書誌的要素）を記述する作業である点は従来の目録業務と同じです。

変わらなければいけないのは、閉じた図書館の視野から、ネットを含めたグローバルな世界観に移行することだといえるでしょう。具体的には以下のような変更点があげられています。

- 書かれている通りに記述する
- 図書館員しか分からない略語は使用しない
- 「3 のルール」はオプションであって、FRBR の考え方に基づき目録作成者が判断する
- 関連を重視（例：逐次刊行資料の個別の号を、タイトル変遷を通した連続した関連で表現） など

4. 実装の動向

LC では 2013 年 3 月 31 日をもって RDA 準拠に移行することを表明されました。また、大英図書館、ドイツ、カナダ、オーストラリアの国立図書館等でも、2013 年の第 1 四半期に移行するとされています。翻訳もドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語への翻訳が始められているようです。既に LC や OCLC ではテストやトレーニング・プログラムが 1 年以上前から行われています。

現在は、従来の MARC21 フォーマットでの運用ですが、2012 年 11 月 21 日に新たな書誌フレームワーク ”Bibliographic Framework as a Web of Data: Linked Data Model and Supporting Services.” が LC から発表され、MARC21 は今後標準的なフォーマットの座を退くことになるでしょう。

この講習会では、世界標準となるであろう RDA について、カタログガーの視点で、出来るだけ平易に解説しようと思います。日本の図書館がガラパゴス化しないために。

5. 出典・参考資料

以上の内容は、カレントアウェアネス CA1767 No.311（2012.3）を要約・解説したものです。

『RDA』：図書館をセマンティック・ウェブ に適したものに

（原著論文 Tillett, Barbara B. Keeping Libraries Relevant in the Semantic Web with RDA: Resource Description and Access. Serials. 2011, 24（3）, p. 266-272）